

AP 日本語導入後の日本語プログラムの変化とアーティキュレーションへの動き:  
南カリフォルニアからの報告

Impact of the AP Japanese Examination on Japanese Programs and Articulation:  
Report from Southern California

庄司京子(ノートルダム高校)  
Kyoko Shoji, Notre Dame High School  
shoji@ndhs.org

1. はじめに

2007 年から AP 日本語試験が実施されているが、その後日本語教育現場ではどのような変化が見られるのだろうか。当発表ではまず、統計から AP 受験者の分布とカリフォルニア州での AP 日本語コース、試験の現状を探る。次に、カリフォルニア州内の日本語教師会でのアーティキュレーションへの動き、AP 関係の研修会や学会セッションなどの報告をする。そして、南カリフォルニアで高校教師と大学教員を対象に行ったアンケート調査結果に基づいて、AP 試験導入後の日本語プログラムに見られる変化を探る。最後に、問題点と今後の課題を検討する。

2. 統計に見る受験者の分布とカリフォルニアでの AP 日本語コースの現状

カレッジボード(College Board)の統計によると、2008 年の AP 日本語試験受験者総数は 1,538 人だった。その内アメリカでの合計は 1,256 人、カナダが 12 人だった。残りの 270 人は北米以外での受験者ということになるが、その中には日本のインターナショナルスクールの学生や、韓国や台湾などでの日本語学習者が含まれているようだ。

次にスタンダードの学生とその他の学生の内訳を見てみる。スタンダードの学生というのは日本語を外国語として勉強している学生のことで、日常生活の中で日本語を聞いたり話したりしていない、また、日本に1ヶ月以上住んだことがない学生のことをいう。このスタンダードの学生は 1,538 人中 890 人で 58%を占め、スタンダードの学生の割合は 2007 年よりも増加している。スタンダードに属さない学生の中には日本語を継承語とする学生だけでなく、日本のインターナショナルスクールの学生や1ヶ月以上日本に留学経験がある学生なども含まれている。

次に、州ごとの AP 日本語受験者数の分布を見てみよう。カレッジボードが州別に出している AP 受験者の数から AP 日本語の受験者数を取り出して、表にまとめてみた(表1)。この表で分かるように、受験者が一番多いのはカリフォルニア州(561 人)で、二番目はワシントン州(84 人)、三番目はハワイ州(75 人)、四番目は東海岸のニューヨーク州(74 人)である。圧倒的に多いカリフォルニア州での AP 日本語受験者は総数の 36%であり、アメリカでの受験者の 45%を占める。これは、高校での日本語プログラム、及び、日本語補習校が多いためであると考えられる。この数値を見ても分かるように、AP 日本語においては、カリフォルニア

州は重要な位置を占めている。受験者が 50 人を超える州は上位 4 州にヴァージニア州とテキサス州を加えた 6 州にとどまり、受験者が 0 から 1 桁の州も多い。ほとんど AP 受験者がいない州にどのように受験者を増やすかというのが今後の課題の一つであろう。

その上、統計上に出てくる数字の解釈には注意すべきであるということもここで指摘しておきたい。例えば、カレッジボードによると 2008 年にはカリフォルニア州の公立高校から 501 人が AP 日本語を受験したと報告されている。しかし、カリフォルニア州教育委員会のサイトによると、2007 年から 2008 年の学年では AP 日本語コースがある州内の公立高校は 18 校しかない。18 校でそれぞれ 1 クラスずつの AP 日本語クラスがあり、合計 359 人の学生が取っているということだが、AP コースを取る学生が全員、実際に AP 試験を受けるわけではない。したがって、カレッジボードの受験したと言われている 501 人には、補習校に通う継承語の学生や日本語母語話者で高校の AP コースを取らずに AP 試験だけを受けている学生が含まれているようだ。

### 3. カリフォルニアの日本語教師会とアーティキュレーションへの動き

AP 試験導入後、日本語教育機関のつながり、中等教育、高等教育、継承語としての日本語教育の間でのアーティキュレーションが問題になってきている。そこで、次はカリフォルニアにおける教師会の間でのアーティキュレーションの動きを報告する。

カリフォルニアでは、日本語を含む様々な言語の教師の団体であるカリフォルニア外国語教師会(CLTA)がある。その傘下として、カリフォルニア日本語教師会(CAJLT)がある。これは、もともと高校の先生のためにできた団体で、現在のメンバーは 85 人程だ。そして、南北に長い地理的な理由からか、南カリフォルニア日本語教師会(TJSC)、と北カリフォルニア教師会(NCJTA)がある。それぞれ、いろいろなレベルで教える教師が混ざっているが、大学の教員の割合が高いようである。TJSC は 150 人程のメンバーがいる。また、日本語学園協会(CAJLS)があり、これは 21 の土曜日の日本語補習校が学校としてメンバーになっている。

これらの州内4つの教師会の中でもアーティキュレーションへの動きが見えてきている。今年度、初めて4つの団体の会長が集まって話し合う機会ができた。将来的には一本化の可能性も出ている。そして、それぞれの団体の役員会に別の教師会の代表が参加するということも始まっている。

また、学会や研修会がアーティキュレーションを促進する場となっている。カリフォルニア外国語教師会 (CLTA)では年に一度学会があり、そこで毎年 AP 関連を含む日本語関係の発表があり、高校の日本語教師も積極的に発表をしている。2009 年の CLTA の学会では、7 つの日本語関係の発表があった。カリフォルニア日本語教師会の総会も毎年そこで行われている。

南カリフォルニア教師会では、年に2回参加者 80 人程の研修会を行っている。ここでも、ある課題についての大学の専門の先生による講演のあと、高校や補習校など様々なレベルの先生の実践に基づく発表なども入っていて、参加者も中等教育、大学、補習校、語学学校

など幅広くから集まり、ネットワークを広げる場になっている。AP 開始以前から研修会でも AP の話題が取り上げられ、AP についての講演の後、いろいろなレベルの先生が混ざったグループに分かれての話し合いも行われた。この教師会では役員も大学の先生だけでなく、大学院生も含め様々な教育機関から選んでいる。

カリフォルニア日本語教師会(CAJLT)では、5箇所地域ごとに勉強会を行っている。私はロサンゼルス地区の勉強会を担当し、年に4回行っている。もともと CAJLT は中等教育の日本語教師のためにできた団体で以前は勉強会も高校の先生が中心だったが、ここ数年、大学や補習校などの先生にも積極的に参加をよびかけ、参加者も増え、特に AP 関係が課題になる時には高校、大学、補習校から 30 人を越える参加者があった。そして、南カリフォルニア教師会の研修会でのフォローアップもしてみよう、という試みも始まり、ここでも別の教師会とのつながりが見られるようになった。

補習校の団体である日本語学園協会でも、ナショナルスタンダードを中心とした様々なピックで教師のための研修会を行っている。補習校の生徒も従来の駐在員の子供に加え、永住者や国際結婚の家庭から来る子供、家では日本語を話さない日系人、など多様化が進み、AP 日本語やアメリカでの外国語としての日本語教育との接点が多くなってきている。

州内での AP 関係の研修や会議では、カレッジボードの夏の1週間の AP 研修が毎年北カリフォルニアで行われている。2008 年秋には AP Conference がロサンゼルスで行われ、また同じく 2008 年秋にロサンゼルスで行われたオーロラ基金の日本語教育シンポジウムでも AP が大きく取り上げられた。どちらも、大学、高校、その他の機関での日本語教育者が多く集まる機会となり、アーティキュレーションの動きを促進させるものだった。

#### 4. 大学と高校の先生対象のアンケート調査結果による AP 試験実施後の日本語プログラムの変化

次に、高校教師と大学教員に行ったアンケート調査結果から、AP 開始後の日本語プログラムの変化について調べてみる。アンケート調査は 2009 年 4 月から 5 月にかけて南カリフォルニアで行い、大学教員 20 人、高校教師 13 人からの回答を得た。高校教師 13 人中、すでに AP 日本語がある学校、またはコース開設予定の学校の先生が 11 人だった。アンケート調査で知れたことは次の点である。

- (1) 高校で AP を始めていない学校はなぜ AP コースが始められないのか。
- (2) 高校で AP を始めた学校は AP を始めたことによって何が変わったか。(コースの内容、教師の質、日本語プログラムの地位など)
- (3) AP 導入における問題点は何か。高校の AP の先生はどんなサポートが必要と感じているか。
- (4) 高校と大学の先生はどのぐらい AP コースの内容と AP 試験の内容と形式を知っているか。
- (5) AP 試験が始まってから、大学での日本語プログラムに変化があったか。

まず、高校で AP がない学校が AP を始められない理由としては、アドミからのサポートがない、日本語プログラムが新しい、ということが挙げられた。また、26 人も申し込んでいても、人数が足りずにコースが開講できない年もあった、という公立高校もあった。

一方、AP があるか開設予定の高校では、日本語プログラムに変化が見られるようだ。カリキュラムがスタンダードに基づいたもの変わったかとの質問には、11 人中 9 人が「はい」と答え、残りの 2 人も以前からスタンダードに沿ったものだった、という答えだった。クラスのインストラクションの質が高まったか、という質問には 11 人中 9 人が「はい」と答えた。トピックに基づいたカリキュラムになり、ナショナルスタンダードの 5 つの柱のひとつである比較対照を入れるようになった、プロフィシエンシーを高めることを重視するようになった、文法中心ではなく学習したことを実際に使うアクティビティーが増え実用性を重視するようになったというコメントが多かった。また、それと同時に自然な会話、正確さも重視するようになったというコメントもあった。教師の質が高まったか、という質問には 7 人が「はい」と答え、AP 日本語のためのワークショップに参加したり、AP 関連に限らず研修会への参加が増えた、という理由が挙げられた。学校での日本語プログラムの地位が高くなったか、という質問には 9 人が「はい」と答えた。それは、学校で AP を重視していること、AP を取りたい学生が多いこと、コースレベルが上がり難易度においてスペイン語やフランス語と同様またはそれ以上になって AP があると自信を持って言えるようになった、などが理由として挙げられた。

AP 導入の問題点としては、試験のレベルが高く、コースのレベルを上げるためにカリキュラムを立て直さなければならない、正式に AP コースとして認められるためのシラバスの審査 (course audit) が大変だった、AP コースとその他のレベルの日本語の混合クラスの問題、教材不足が挙げられた。補習校でも教える先生からは生徒が AP 試験を受けられる場所の確保が大きい問題として挙げられた。高校の AP の先生がサポートを必要としていることは、教材やサンプルテスト、学校でのテクノロジーのアクセス、アドミや学校区からのサポートだった。

では、大学の先生と高校の先生はどのくらい AP コースの内容と AP 試験の内容・形式を知っているのだろうか。AP コース内容と試験の内容と形式について、よく知っている(5)から全然知らない(1)の 5 段階で自己評価してもらった。その結果、大学教員では 3 をつけた人が多く、全く知らない先生もいた。自信をもってコース内容と試験内容・形式に 5 をつけた人は 1 人だった。特にコミュニティーカレッジだけで教えている先生の間では AP はあまり知られていないようだ。高校で AP を教えている先生は両方 5 という先生も多く、平均点も大学では AP コース内容が 3.2、試験内容と形式が 3.0、高校ではそれぞれ 3.8 と 4.0 で、高校教師の方が高かった。

AP 試験が始まってから、大学での日本語プログラムに変化があったか、という質問に関しては大学教員から「はい」という答えはなく、大学側ではまだ変化は見られないという結果だった。AP を受験している、大学ではプレースメントテストを受けさせるので、どの学生が AP を取った学生かわからない場合も多いようだ。AP に積極的に関わっていて、AP を受けてから大学に入ってきた学生を教えている大学の先生からは、AP をしてきた学生の質の高さを認めるコメントもあった。

## 5. 今後の課題

AP 日本語試験の受験者を増やし定着させるためには、まず高校レベルの日本語プログラムを充実させることが必要である。カリフォルニアの高校では、公立でも私立でも中国語を始め日本語が廃止されているところが少なくない。日本語プログラム存続のためには、日本語プログラムの宣伝活動(Advocacy)が必要である。そのためには、活動範囲をクラスの外に広げていく必要がある。学生をスピーチコンテストなど学校の枠を超えたコンテスト等に参加させて学校や地域に知らせることも効果があるだろう。学校のアドミとの間にいい関係を築くことや学校区への働きかけも大切である。また、高校入学以前の生徒と保護者に高校での日本語プログラムと AP 日本語についての情報を提供すること、そして大学で AP 日本語の結果が単位取得などの実際のかたちで認められることなどが、高校レベルでの日本語を取る学生を増やすことにつながるだろう。

また、AP コースを増やすためには、AP を教えられる先生の養成が必要である。AP 導入後 AP を始めた学校と始めている学校との日本語プログラムの差が大きくなってきていると思われる。各地域での AP 研修や、教師会などを通して経験のある先生がまだ始めている先生の指導をする制度などが必要だと思われる。特に英語母語話者で AP コースを教えられる日本語教師の養成にも力を入れるべきではないだろうか。

また、カリフォルニアの場合は日本語を継承語として補習校で学ぶ学生も多い。その中には AP 日本語試験を受けたくても受験できる場所がなくて受験できない生徒が多くいる。自分の高校で受験できない学生のための試験場の確保が、日本語を継承語とする学生の AP 受験者を増やすための大きい課題のひとつである。

言うまでもなく、日本語プログラム向上のためには、教えるレベルに関係なく、常にカリキュラムの質を高めていかなければならない。質の高いプログラムは生き残ることができるはずである。高校教師も教師としての質を高めるために、教師会や学会のメンバーになり、積極的に学会や研修に参加することが必要だ。学会や研修会は大学の先生とのネットワークを広げる場でもあり、レベルを超えたネットワーク作りがアーティキュレーションにつながっていく。大学の先生に高校でしていることを知ってもらうためにも、高校教師も研修会や学会で発表することを勧めたい。また、大学での日本語教育について知り、AP コースでは大学と同じレベルのコース内容だけでなく、大学レベルの自主的学習を学生に要求することも、大学の日本語コースへのスムーズな移行につながると思われる。

大学の先生は、日本語学や言語学など専門分野の学会に加え、ACTFL や州の外国語教師会などのメンバーになり外国語教育の研修会や学会に参加し、K-12 を含む外国語教育全体の流れを把握することが大切だと思われる。また、高校の日本語クラスを視察したり AP について理解することも、高校で日本語を取ってから大学に入ってくる学生の受け入れ態勢を整える上で役に立つはずだ。

高校の AP 教師及び初級レベルを教える大学の先生には、AP 試験自由回答部門の採点者 (AP reader) をすることも勧めたい。AP の採点方法を知り AP の最前線の情報を得られる

だけでなく、大学・高校の枠、地域の枠を超えたネットワーク作りの場でもあり、貴重な体験ができる。

日本語教師会は、アーティキュレーションを進め、地域への日本語プログラム宣伝活動をしていくべきである。複数の日本語教師会の連結を進めながら、高校大学の先生と一緒に参加する研修会や、レベルを超えて日本語学習者が一緒に参加できるスピーチコンテストや日本文化について学び体験するイベントの企画などにも積極的に取り組んでいく必要があるだろう。

## 6. 結論

AP日本語受験者が多いカリフォルニアでは、APコースを開設している高校では教師は研修を重ねて教師としての質を高め、授業内容も充実し、コースのレベルも高まり、日本語プログラムの地位も向上し、いい方向に変化が見られるようである。大学で教える先生にとってはまだ実感する変化は見られないようであるが、今後変わっていくと思われる。複数の日本語教師会の間での連携や研修会・学会などからみると、AP日本語試験がアーティキュレーションの動きにつながったことは明らかである。これから更にアーティキュレーションを進め、AP日本語の定着及び日本語プログラムの地位向上を目指し、今まで中等教育と高等教育と継承語で別々だった日本語プログラムを一貫性のある質の高いものにしていく必要があると思われる。

参考資料

AP Data 2008 <http://professionals.collegeboard.com/data-reports-research/ap/data>

AP Japanese Language and Culture: Student Grade Distributions  
[http://apcentral.collegeboard.com/apc/public/repository/ap08\\_Japanese\\_GradeDistributions.pdf](http://apcentral.collegeboard.com/apc/public/repository/ap08_Japanese_GradeDistributions.pdf)

California Department of Education: Statewide Course Enrollment  
<http://data1.cde.ca.gov/dataquest/crselist1.asp?cChoice=StCrse&AP=on&cYear=2007-08&cLevel=State&cTopic=Course&myTimeFrame=S&submit1=Submit>

表1. 2008年州別AP日本語試験受験者数

Alabama	1	Louisiana	1	Ohio	11
Alaska	7	Maine	0	Oklahoma	2
Arizona	4	Maryland	26	Oregon	27
Arkansas	0	Massachusetts	15	Pennsylvania	3
California	561	Michigan	17	Rhode Island	2
Colorado	27	Minnesota	16	South Carolina	1
Connecticut	5	Mississippi	1	South Dakota	0
Delaware	0	Missouri	6	Tennessee	2
Florida	14	Montana	1	Texas	53
Georgia	4	Nebraska	0	Utah	8
Hawaii	75	Nevada	14	Vermont	4
Idaho	1	New Hampshire	4	Virginia	58
Illinois	34	New Jersey	35	Washington	84
Indiana	10	New Mexico	4	Washington, D.C.	1
Iowa	4	New York	74	West Virginia	0
Kansas	4	North Carolina	22	Wisconsin	5
Kentucky	8	North Dakota	0	Wyoming	0